

石巻圏域で初の高校生との議会懇談会開催



7月17日、議会懇談会を宮城県東松島高等学校で行いました。

市議会議員が県立高校へ訪問しての議会懇談会は、石巻圏域では初の試みでした。

平成28年に選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことを受け、政治を身近に感じてもらうきっかけづくりとして開催しました。

今回は事前に全校生徒にアンケートを実施し、それをもとに全校生徒を代表した7名の生徒会役員と意見交換をしました。

出席議員は広報常任委員会委員で、司会を熱海重徳委員、開会あいさつを小野幸男委員長、市議会についての紹介、閉会あいさつ、総括を櫻井政文副委員長、記録を手代木せつ子委員と役割分担し担当しました。また、答弁は質疑事項を所管している常任委員会を代表して委員長である上田勉委員（民生教育常任委員長）、大橋博之委員（産業建設常任委員長）が務めました。

近隣市町村から電車で通学している生徒もいることから「バリアフリー化の推進」「分煙化推進について」など身近で切実な問題が提議されました。また、東松島市の今後について「子育てがしやすく、子どもたちが遊べる場所がたくさんある町」「色々な国の人々が集まるような国際色豊かな町」など若者らしい視点からの問いかけもありました。

今回の懇談会を通して、若者の率直で新鮮な意見を聴けたのは大変、有意義でした。また、このような機会を設けたいと考えています。

なお、熊谷昌崇委員は水道企業団議会臨時会出席のため欠席しました。

質疑応答・意見交換のテーマについて、あらかじめ東松島高等学校で全校生徒アンケートを実施しました。

その回答を受けて東松島高等学校生徒会としてまとめた意見と、本市議会の回答が以下の通りです。

テーマ1 学校周辺や矢本駅等を利用して改善してほしいところ

1 バリアフリー化の推進について

質疑事項	回 答
駅周辺の道路や歩道は老朽化が進んでおり、道路と歩道の段差や、その段差の欠陥箇所などが多く見られる。登下校時の安全確保の観点からも改善してほしいが、地域のお年寄りや子どもたちが暮らしやすいバリアフリーのまちづくりを進める観点からも、今後改善を期待している。	狭い道路、車いすや子供等の安全確保のため、優先順位をつけて整備している。線路と道路の間は、良くなったと思っている。裏を通して、真つすぐ駅に行くところ、学校の塀のところ、だいぶ進んでいるが、震災後、また県に要望等を伝えていく。健常者はよいが、塀側のところ、ごみ置き場については近所と相談が必要。これを機会に整備する方向で調整していきたい。 バリアフリー化については、整備が必要である。 駅前については、今後、校舎の西側、街灯のLED化を進める方向となる。冬場は中学生も通るので、塀側は優先的に進められるとよい。ご質問はありがたかった。 震災の復旧、復興にあと2年要する。 それ以降、様々な整備も、優先順位を決めて行われるものである。

2 分煙化推進について

質疑事項	回 答
公共の場所（今回のアンケートにおいては矢本駅）における喫煙所の設置に関して、全校生徒の多くから意見が集まった。 昨今は喫煙スペースを個室化したり、距離を置いたりして分煙化する取り組みが進められている。矢本駅は、本校の生徒だけでなく、多くの高校生が利用している。私たち未成年が喫煙者の前を歩いて煙を吸ってしまうことによる弊害もあり、その煙に対して嫌悪感を抱いている生徒が多いことは今回のアンケートでも明らかになったとおり。ぜひ、対応策を考えていただきたい。	矢本駅はJRの管轄であるが、よい機会なのでアピールしていきたい。 将来的に「ゆぶと」北側をつなぐ計画がある。 その場所に喫煙場所を設置するよう、アピールしていきたい。 法律で公共施設については、施設内は全面禁煙となっている。（分煙化は、市役所内でも実施） しかしながら、たばこ税として、東松島市に3億5千万円入ってきている。 体には悪いが吸う方の権利もあり、分煙化するものである。 平成32年度までには、新駅舎ができるかもしれないが、計画はあっても土地の問題もある。 皆さんの若い意見は重要である。



▲出席した女子生徒とも意見交換でき、貴重な機会でした
平成30年11月1日発行



▲全校生徒を代表した生徒会役員から有意義な意見をたくさんもらいました